

外科治療を必要とする門脈ガス血症の特徴

■ 研究の対象となる方

2012年1月から2020年4月までに当院で門脈ガス血症と診断、治療を受けられた方

■ 目的・方法

門脈ガス血症はこれまで腸管壊死を含めた消化管疾患の重症病態を示唆する画像所見として捉えられてきました。近年、保存的治療が可能な例が報告されていますが、外科的治療の必要性を判断する明確な基準はありません。今回、門脈ガス血症における腸管壊死のリスク因子と在院死のリスク因子について解析し、救急の臨床現場で迅速かつ的確に治療方針を判断できる指標を解析したことを目的としてこの研究を行います。

保存的治療と判断された患者さんと手術が必要と判断された患者さんの診療記録を比較し、リスク因子について検討します。

■ 実施期間

2020年10月21日～2021年3月31日

■ 研究に使用する情報

患者背景因子、来院時のショックや腹膜刺激徴候の有無、SIRS診断基準の陽性項目数、血液検査所見など診療の中で得られた情報を使用します。この研究のために新たな検査や調査をお願いすることはありません。

■ お問い合わせ

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

連絡先	済生会熊本病院 外科 医長 新田 英利 (研究責任者) 住所：熊本市南区近見 5 丁目 3 番 1 号 電話：096-351-8000(代表)
-----	--

以上